

## 高齢者受入れの実績

特 養	53施設	610人
老 健	16施設	205人
療養型	9施設	31人
養 護	2施設	8人
計	80施設	854人

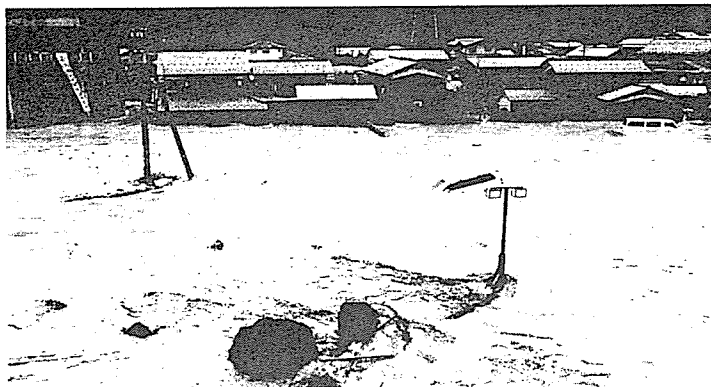
## 障害者緊急受入れの実績

肢体不自由児施設	1施設	2人
肢体不自由者更生施設	1施設	1人
身体障害者療護施設	4施設	18人
知的障害者総合援護施設	1施設	48人
知的障害者更生施設	4施設	36人
重症心身障害児施設	1施設	16人
重症心身障害児委託国立療養所	1施設	2人
計	13施設	123人

## 【要援護者に対する旅館借上げ】

- 1 対象者：高齢者及び介護者（家族）、車中泊等による疲労困ぱい者等援護が必要と認められる者
- 2 協力団体：新潟県旅館組合ほか
- 3 実施期間：平成16年10月29日～平成17年3月31日
- 4 受入者数 延べ11,000人（泊）
- 5 課題等
  - ・自治体と施設との協定締結など災害発生時の速やかな受入体制の整備。
  - ・地元を離れ遠隔地に避難することに不安を抱き、利用を控えた者が見受けられた。

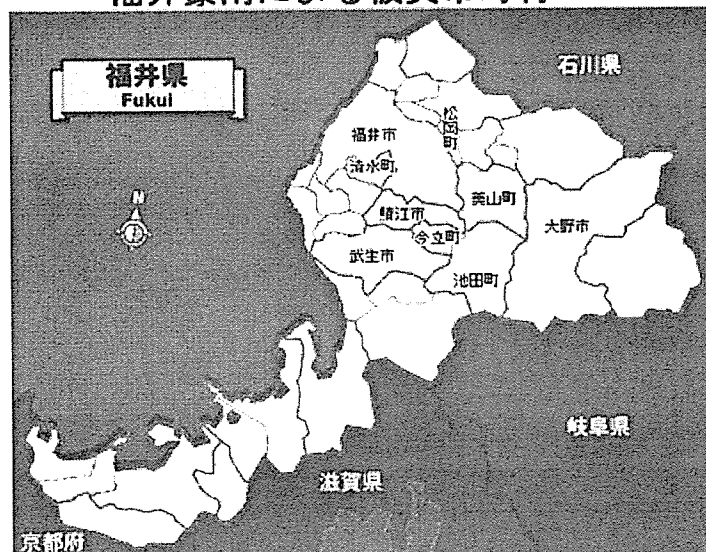
# 「水害と保健活動」 ～福井豪雨災害と市町支援～



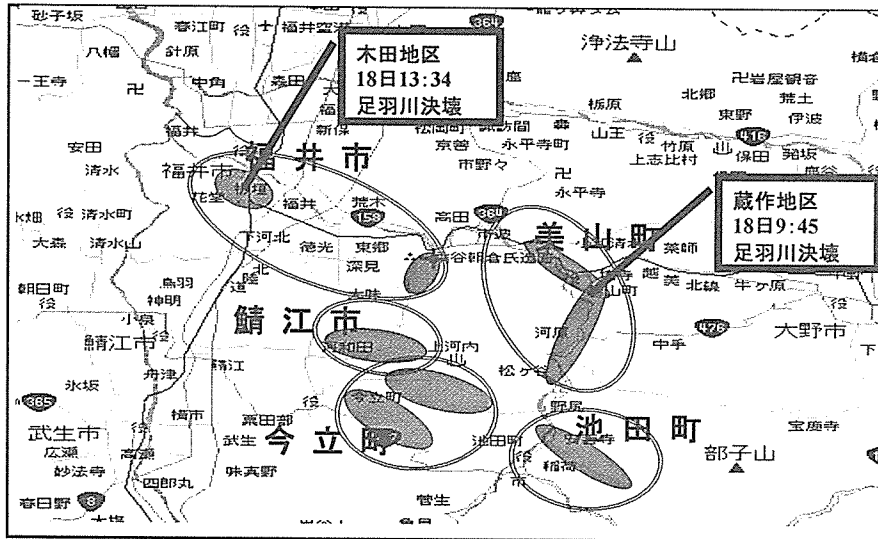
豪雨に飲み込まれた“まち”

福井県福井健康福祉センター  
長谷川まゆみ

## 福井豪雨による被災市町村



18日未明に福井県北部を突然襲った集中豪雨は、降り始めから10時間で観測史上最大の雨量を記録し、福井市の一乗谷で338ミリ、美山町で285ミリと、7月の月間降水量に達した



## 被災市町の被害状況

	人口 (世帯)	最大被害状況				避難者 (避難所)	救護 所	保健担当職員	
		人的 被害	全壊 半壊 破損	床上浸水 床下浸水	ライフライン				
福井市	254,161 (86,811)		22 40 97	3,254 8,059	停電 電話不通 断水	4,789 (28)	2	保健師 25 他専門職 3 事務職 7	
美山町	5,250 (1,415)	死者 1 不明 1	35 36 26	137 168	停電 電話不通 断水	1,224 (28)	3	保健師 2 他専門職 0 事務職 1	
鯖江市	67,410 (20,551)	死者 1	4 42 81	349 611	停電 断水	492 (10)	1	保健師 10 他専門職 2 事務職 3	
今立町	13,847 (3,654)	死者 1	1 5 23	276 584	断水	2,255 (13)	2	保健師 3 他専門職 0 事務職 2	
池田町	3,758 (1,098)		4 12 1	19 96	電話不通 断水	174 (3)	1	保健師 2 他専門職 0 事務職 2	

## 基本理念〔方針〕

- 1 健康危機管理対応に基づいた展開
  - ◆健康危機管理ガイドライン(厚生省、H13)
  - ◆健康危機管理対応要領(本県、H14)
- 2 市町村支援を視点に置いた展開

## 基本的な考え方

- 1 被災市町の補完的・代行的な支援
  - ◆被災市町の主体性の尊重
  - ◆災害復旧状況を考慮(被災者の不安軽減)
  - ◆先を予測した適時、適切な提案とフォロー
- 2 関係機関との連携とコーディネート
  - ◆医療機関との連携、ボランティアとの協働
- 3 平時の地域保健活動へ継続
  - ◆被災市町保健師との協議・連携

## 初動体制の確立

### ①第1報の探知と報告・連絡

◆第1報の探知:18日(日)7時30分 地域支援室長

◆報告・連絡 :所長・医幹(保健所長)に報告  
管内市町村に状況確認・連絡

### ②休庁時の職員召集

◆18日(日)8時30分までに:管理職と担当職員  
9時30分までに:出勤可能な職員

### ③第1回健康福祉センター支援会議

◆18日(日)9時20分:各課対応の準備  
(センター周囲も被害、避難所として対応)

## 指揮命令

### ①健康福祉センター対策会議の開催と支援策の決定

◆災害発生後、2週間はほぼ毎日開催

◆被災市町からの依頼および現地活動の報告を  
踏まえた支援策の検討

### ②職員の配置

◆対策会議で、庁舎常駐班、総務班、環境衛生巡回  
班、健康相談班、消毒班を決定  
(センター内横断的な職員構成)

## 情報管理

### ①情報収集と一元化

- ◆情報収集：地域支援室長、各部課長
- ◆一元化：地域支援室長を通じ所長、医幹へ

### ②情報の共有化

- ◆ホワイトボードによる全職員への情報提供
- ◆情報担当者による情報管理・整理と資料配布

## 具体的な展開

- 1 初動時の現地確認(医師・保健師)
- 2 被災市町の庁舎常駐(保健師・薬剤師)
- 3 被災現地の保健活動
  - ①防疫・消毒(行政機関として)
  - ②衛生および廃棄物対策
  - ③健康相談と心のケア

# 1 初動時の現地調査

- ①被災現場の調査(直後の生活実態を知る)
- ②医療の確認(被災地内の医療の確保)
- ③被災市町の保健行政機能の把握



- ◆被災市町への介入判断、町庁舎への常駐派遣(相談役、県との調整役)について意見報告
- ◆救護所の設置要請の支援(町・本庁)

## 被災現場の調査から

- ◆被災報告では確認できない、被災地(者)の保健衛生的な生活実態を、また被災市町村の対応状況を調査する。  
福井市:福井市保健センター・福井市一乗地区  
美山町:美山町役場・美山町下味見地区(パトカーにて)
- ◆被災者の状況
  - 人工透析患者が小さなシャベルで土石を運んでいた。
  - ガラスで上肢を切った若者は、サランラップと手ぬぐいの簡単な処置で、復旧作業をしていた。(パトカーで搬送)
  - 避難所で炊き出しをしていた主婦達は興奮状態で、血圧は通常より30~50mmHg高かった。
- ◆被災町保健担当課(美山町)の状況
  - 被災者の生活がどうなっているかわからず・・・
  - 何を、どのように手をつけて良いか・・・(優先順位と手段)



## 2 被災町への常駐派遣

### (1) 保健担当課での対応

- ① 町保健師への情報提供と共有化・一元化
- ② 救護所を拠点とした保健活動の実施
- ③ 二次的健康被害予防の普及啓発  
(現疾患の悪化、熱中症・感染症・食中毒予防)

### (2) 町災害対策会議に出席

保健活動の報告と課題の提案

## 3 被災現地の保健活動

### ① 防疫・消毒

- ◆ 消毒剤と散布時期、方法の指導
- ◆ 巡回指導と独居高齢世帯、公共施設の消毒

### ② 衛生および廃棄物対策

- ◆ 食品営業施設、集団給食施設の立入監視
- ◆ 簡易水道施設、浄化槽等の維持管理指導
- ◆ 災害廃棄物処理対策の支援・指導
- ◆ 災害廃棄物の収集、運搬、処分(ボランティア)

### ③健康相談と心のケア

#### ◆避難所の健康相談(災害直後から)

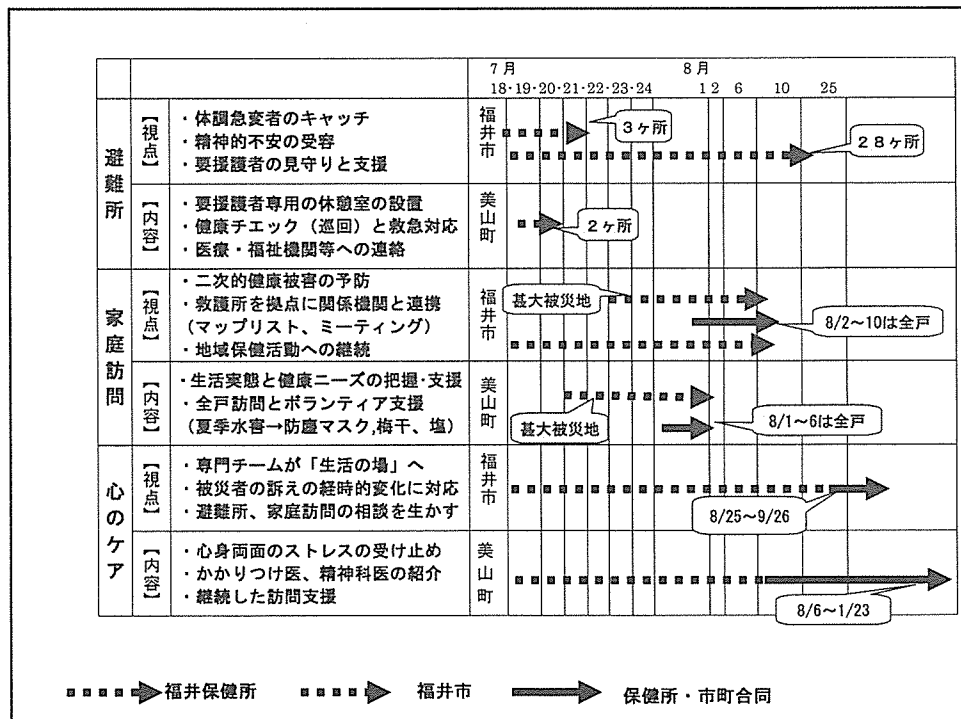
- ・福井市:市保健センターから要請(18日~21日)
- ・美山町:健康福祉センターから介入(19日~20日)

#### ◆被災地の家庭訪問(救護所を拠点に)

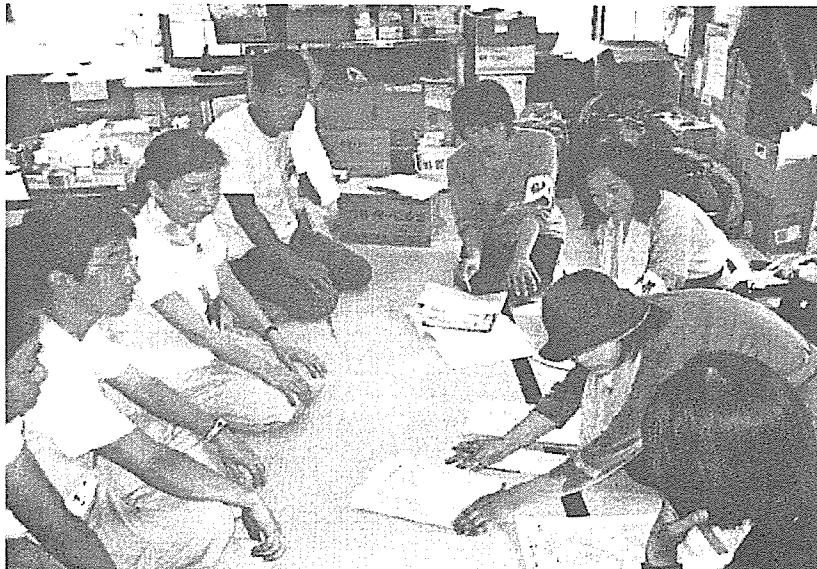
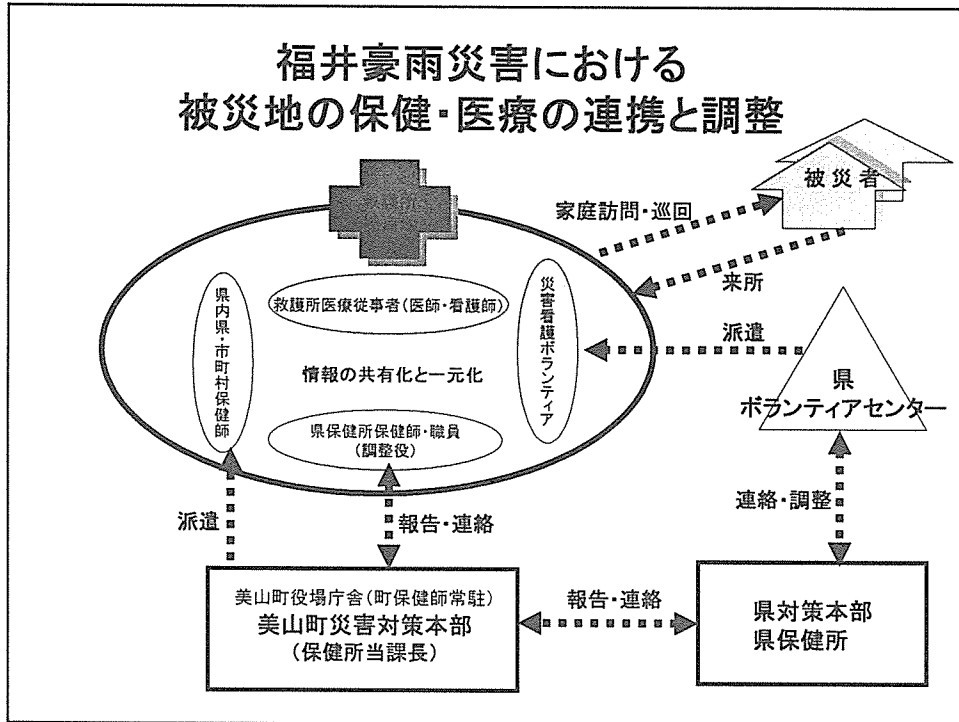
- ・福井市:大きな被害のあった一乗地区
- ・美山町:関係機関との協働により全地域

#### ◆心のケア(平時の地域保健活動へ継続)

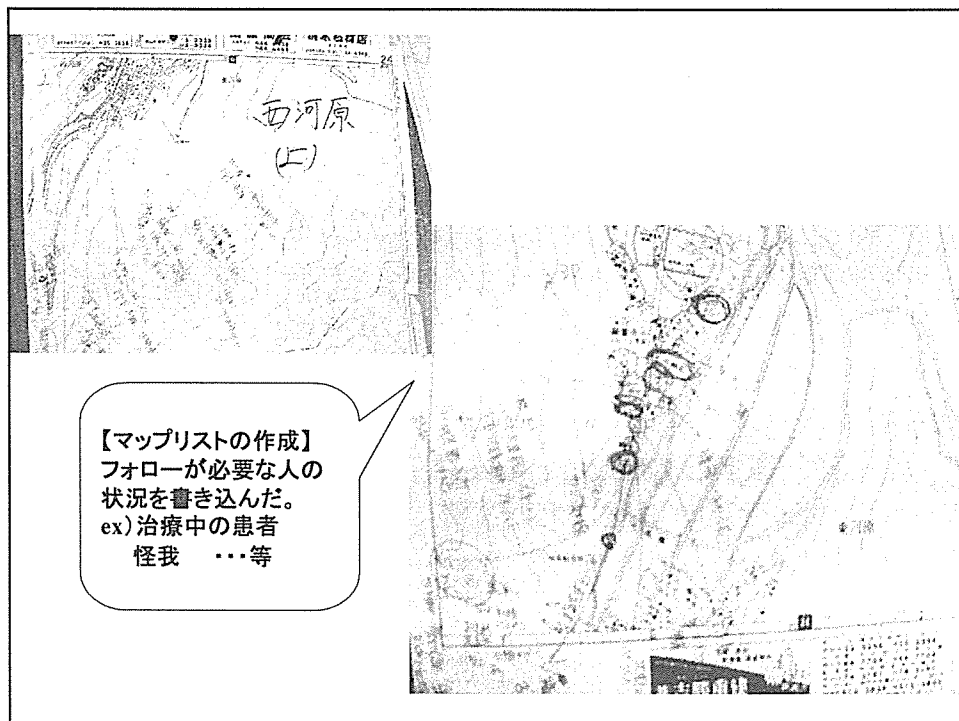
- ・精神科医師を含めた専門チームによるケア
- ・避難所、家庭訪問による健康相談を生かして



## 福井豪雨災害における 被災地の保健・医療の連携と調整



巡回健診相談実施前のミーティング



## 【避難所の健康相談】

- ◆医療機関への連絡・搬送  
高血圧、脳硬塞、糖尿病、在宅酸素療養者
- ◆傷病者への対応  
避難時の怪我(擦過傷、打撲等)、パウチ交換  
障害者の排泄介助、認知症
- ◆妊婦および若い母親への対応  
腹部の緊張(妊婦)、精神的不安
- ◆介護保険制度利用者の連絡・調整
- ◆健康教育(食中毒・感染症の予防)  
炊き出し担当の被災地主婦への指導

## 【家庭訪問の健康相談】

- ◆復旧作業による訴え、怪我への対応  
腹痛、腰痛、皮膚炎、目やに、打撲、擦傷、  
ガラス破片や釘等からの傷、熱中症
- ◆傷病者への対応  
心疾患、高血圧、糖尿病、人工透析、膀胱炎等患  
者、過換気症候群、急性精神症状
- ◆介護保険制度の利用調整  
デイケア、訪問看護、ショートステイ等

## 【心のケア】

- ◆毎日のように救護所を訪れていた被災者
- ◆継続して家庭訪問をしていた被災者
- ◆8月中旬以降に実施した全戸訪問により、必要と思  
われた被災者



保健師から専門チームによる訪問を紹介  
(スタッフ:精神科医師、臨床心理士、保健師等)

## 心のケア実施結果

- ◆実施市町:被災市町 2市3町
- ◆実施数 :118人(男性43人 女性75人)
- ◆保健師が初回に関わった時期  
10日まで41人 1か月まで50人、1か月以降27人
- ◆支援内容
  - ・被災者の訴えの受けとめ(経時的変化)
  - ・かかりつけ医、精神科受診のすすめ
  - ・服薬指導、保健福祉サービスの調整等

## 被災者の訴えと経時的な変化

区分	具体的な訴え
ア 身体面	頭痛・筋肉痛・便秘・食欲不振・呼吸障害・めまい・しびれ 等
イ 心理面・感情面	感情マヒ・睡眠障害・恐怖の揺り戻し・不安・落込み 等
ウ 思考面	集中困難・思考力のマヒ・混乱・無気力・判断力の低下 等
エ 行動面	けんか・家族間のトラブル・引きこもり・社会からの孤立 等

図1 被災者の訴えと経時的変化

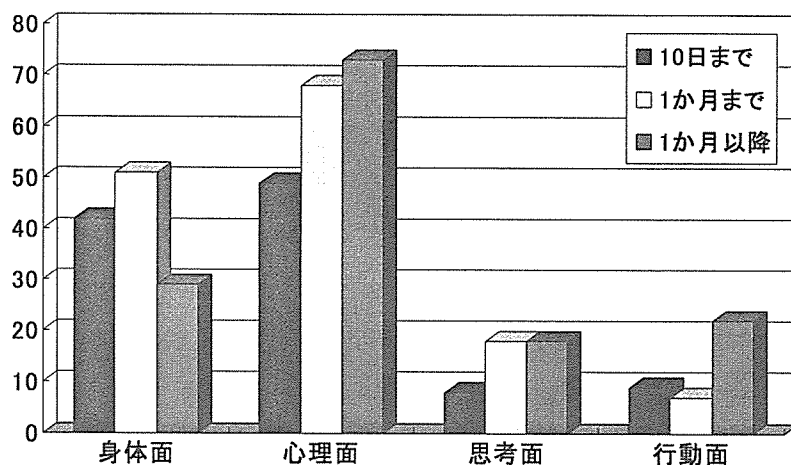


図2 身体面の訴えと経時的変化

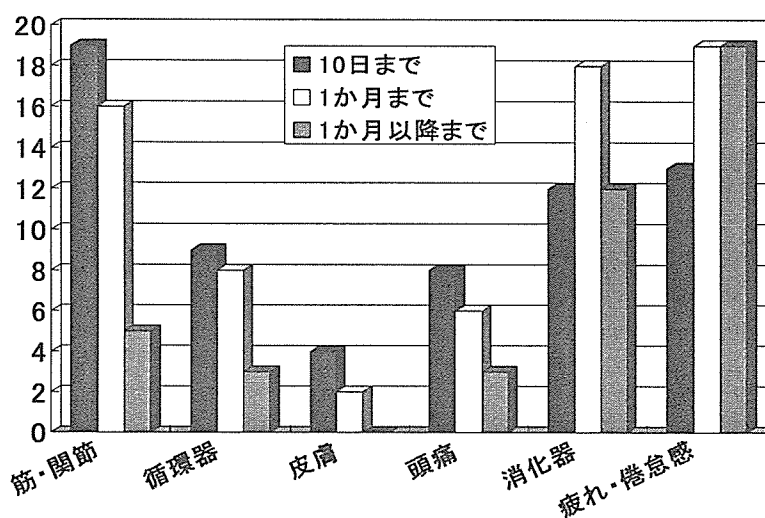
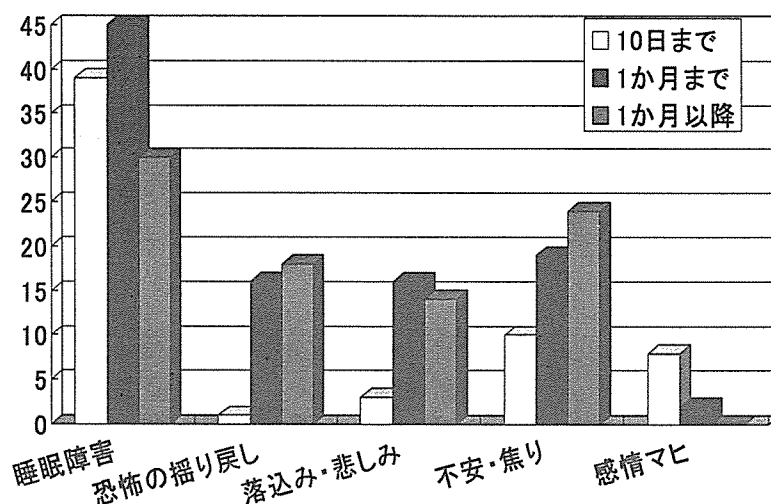


図3 心理面の訴えと経時的変化



## 今後に向けて

- ◆健康危機管理時の初動体制の確立
  - 健康危機管理に関する情報管理
  - 職員の健康危機管理意識の向上
  
- ◆災害復旧状況を考慮した被災者への支援
  - 被災者の不安を軽減
  - 災害前の健康状態に戻るための支援



## 災害時における保健活動の視点

兵庫県健康生活部健康局  
健康増進課 中野 則子



## 阪神・淡路大震災の概要と特徴

- 1 H7. 1. 17 5:46発生
- 2 震度 7:神戸・芦屋・西宮・宝塚市・津名郡の一部  
6:神戸・洲本市 5:豊岡市 4:姫路市
- 3 マグニチュード 7.3
- 4 震源地 淡路島北部 深さ16km  
北緯34度36分東経135度02分
- 5 特徴 ・人口350万人余が密集し、経済活動の中枢を担う神戸・阪神地域の内陸・都市直下型地震  
・深さ16kmの比較的浅い部分で発生し、断層が横にずれて起こったため大きなエネルギーが一拳に解放された

## 被害状況、復旧状況

### 1 被災状況（災害救助法の適用 10市10町）

(H14.12.26現在)

死者		6,401
行方不明		3
負傷者	重傷	10,494
	軽傷	29,598
	合計	40,092
全壊	棟数	111,123
	世帯数	191,617
半壊	棟数	137,289
	世帯数	257,313

### 2 避難所生活者(H7.1.23ピーク時)

1,153ヶ所 316,678人

### 3 ライフラインの状況

区分	震災直後	復旧状況
電気	約260万戸停電 (内兵庫県は約100万戸)	H7.1.23倒壊家屋等を 除き復旧完了
ガス	約84万5千戸が供給停止	H7.4.11倒壊家屋等を 除き復旧完了
水道	約127万戸が断水	H7.2.28復旧完了 H7.4.17全戸通水完了
下水道	被災管渠総延長約316km	H11.4.27復旧完了
電話	交換機系 約28万5千回線 加入者系約19万3千回線が不通	H7.1.18復旧完了 H7.1.31復旧完了

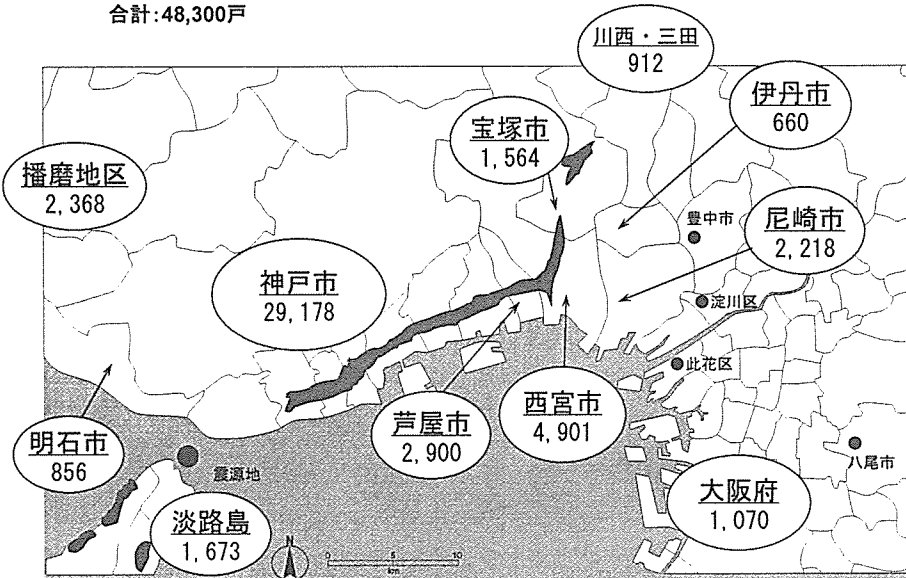
### 被災総額

対象	推計額
1 建築物	約5兆8,000億円
2 鉄道	約3,439億円
3 高速道路	約5,500億円
4 公共土木施設(高速道路を除く)	約2,961億円
5 港湾	約1兆円
6 埋立地	約64億円
7 文教施設	約3,352億円
8 農林水産関係	約1,181億円
9 保健医療・福祉関係施設	約1,733億円
10 廃棄物処理・し尿処理関係施設	約44億円
11 水道施設	約541億円
12 ガス・電気	約4,200億円
13 通信・放送施設	約1,202億円
14 商工関係	約6,300億円
15 その他の公共施設等	約751億円
合計	約9兆9,268億円

## 支援状況

1.警察出動人員	延約 3,199,000人 (8年4月30日現在) (ピーク時 : 7.1.20~2.28 4,500人/日)
2.自衛隊 出動人員	延約 1,900,000人 (7.1.17~4.26) (ピーク時 : 7年2月8日 21,760人)
3.医療救護員	延約 75,000人 (7.1.22~4.30) (ピーク時 : 7年2月7日 1,730人)
4.ボランティア	延約 1,670,000人 (H9年5月31日現在) (ピーク時 : 7.1.17~2.17 20,000人) 現在約600人/日
5.義援金受入額	1,793億円 (H15年2月28日現在)

仮設住宅の分布  
合計:48,300戸



平成8年10月